

# 南常盤台・天祖神社所蔵資料

(みなみときわだい てんそじんじゃ しょぞうしりょう)

板橋区登録有形文化財(古文書・歴史資料) 平成14年3月19日登録

所在地：板橋区南常盤台2-4-3

交通：東武東上線「ときわ台」駅  
徒歩2分

南常盤台の天祖神社は、江戸時代には川越街道上板橋宿の鎮守であり、境内の常磐の杜が、「常盤台住宅地」の名前の由来となったことでも知られています。当社には古文書401件と絵馬23点からなる所蔵資料があり、これらが文化財となっています。このうち古文書は、昭和前期のものに特徴があり、とくに大正15年(1926)～昭和22年(1947)にかけて系統的に残っている天祖神社氏子総代会会議録や、常盤台住宅建設以前の段階における宅地開発に関する文書などが注目されます。

また、絵馬は文政11年(1828)から昭和期までの約150年間に神社に奉納されたもので、神功皇后などの神話や酒吞童子などの物語を題材とした大絵馬と、氏子の人びとが家族の健康や安穩などを願う拝み図に大別されます。これらの中には、板橋宿に住み、江戸末期から明治期にかけて活躍し、同じく区有形文化財である「縁切榎茶屋風景図絵馬」などを描いた柴左一の作品2点が含まれます。

